

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

【障害児・者のスポーツ・レクリエーション活動の最新報告】 障害児・者のスポーツの多様性が明らかに！

平成27年度スポーツ庁『地域における障害者スポーツ普及促進事業
(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』報告書

笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区 理事長:小野清子 以下:SSF)では、平成27年度スポーツ庁委託調査『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』を取りまとめました。その中のひとつとして障害児・者本人、あるいは同居する家族で障害児・者がいる方々を対象とした「障害児・者のスポーツライフに関する調査」を実施しました。主な調査結果は以下のとおりです。本報告書はSSFのウェブサイトで閲覧いただけます。

【主な調査結果】

- ① 週1日以上スポーツ・レクリエーションの実施率は、7~19歳が31.5%、成人が19.2%。
7~19歳・成人ともに、肢体不自由(車椅子必要)の実施率は低い
- ② 実施種目は、7~19歳のほとんどの障害で「水泳」がトップ。指導者、サポートが充実している学齢期は、指導方法、アプローチ方法が多様で積極的に実施
- ③ 成人では一人で取り組める「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」の実施率が増加傾向
- ④ 半数の障害児・者はスポーツ・レクリエーションに関心がなく、その割合が知的障害、発達障害では、さらに高くなる
- ⑤ 「肢体不自由(車椅子必要)」では「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が約3割と高く、障害が重度になると、さらに高くなる

【担当者コメント】

今回の調査では、障害のある成人の運動・スポーツ実施率は、週1日以上が19.2%、週3日以上が9.3%となっており、障害者の定期的スポーツ実施率は、健常者の半分以下であった。どの障害でも、ウォーキング、散歩(ぶらぶら歩き)の実施率が高く、場所を問わず、個人で手軽に行える運動・スポーツの人気は、障害の有無を問わず共通していた。障害種別にみると、例えば、車椅子を利用する肢体不自由者では、年収が多いほどスポーツの実施頻度が高くなっており、スポーツの用品・用具等にかかる費用がスポーツ実施の障壁となっている可能性が示唆されるなど、障害種別で多様なスポーツの実施状況が明らかとなった。

【笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 小淵和也】

この件に関するお問合せ先
笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所:小淵、澁谷、上
TEL:03-5545-3303 info@ssf.or.jp

【主な調査結果】

①障害児・者のスポーツ・レクリエーションの実施

週1日以上スポーツ・レクリエーションの実施率は、7～19歳が31.5%、成人が19.2%となっている。内閣府が全国の成人を対象に実施している「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」（平成27年6月）では、週1日以上の実施者は40.5%で、障害者のスポーツ実施頻度が低いことが分かる。

障害種別に見ると、7～19歳では、視覚障害、聴覚障害の約4割が週1回以上実施しているのに対して、肢体不自由（車椅子必要）では約1割だった。成人では、ほとんどの障害で約2割だったが、肢体不自由（車椅子必要）では約1割だった。

実施種目をみると、7～19歳では「水泳」「散歩（ぶらぶら歩き）」「体操（軽い体操、ラジオ体操など）」が高く、特に「水泳」は、7～19歳のほとんどの障害で上位種目であった（図表1）。水泳は、指導方法やアプローチ方法が多様で、指導者・サポートが充実している学齢期には特に積極的に実施される。成人では一人で実施できる「散歩（ぶらぶら歩き）」「ウォーキング」が増える傾向にある。

図表1 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別、成人:N=2,191、7～19歳:N=552)(複数回答)

	肢体不自由 (車椅子必要)		肢体不自由 (車椅子不要)		視覚障害		聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害	
	N=14	N=35	N=20	N=40	N=184	N=287	N=35							
7～19歳	1位	散歩(ぶらぶら歩き) 28.6	ウォーキング 25.7	水泳 50.0	水泳 30.0	水泳 42.4	水泳 44.6	水泳 28.6						
	2位	水中歩行	水泳	体操(軽い体操、ラジオ体操など) 40.0	ジョギング・ランニング 22.5	散歩(ぶらぶら歩き) 37.0	散歩(ぶらぶら歩き) 29.3	散歩(ぶらぶら歩き) 20.0						
	3位	海水浴 21.4	散歩(ぶらぶら歩き) 22.9	なわとび 30.0	キャッチボール なわとび 17.5	ジョギング・ランニング 21.7	なわとび 21.3	キャッチボール 野球 なわとび 17.1						
成人	N=141		N=520		N=219		N=253		N=190		N=161		N=616	
	1位	散歩(ぶらぶら歩き) 22.0	散歩(ぶらぶら歩き) 41.0	散歩(ぶらぶら歩き) 37.9	散歩(ぶらぶら歩き) 36.4	散歩(ぶらぶら歩き) 45.8	散歩(ぶらぶら歩き) 39.8	散歩(ぶらぶら歩き) 45.0						
	2位	キャッチボール 14.9	ウォーキング 26.5	ウォーキング 33.8	ウォーキング 31.2	ウォーキング 24.7	ウォーキング 28.6	ウォーキング 36.0						
3位	ウォーキング	水泳 13.3	水泳 12.8	体操(軽い体操、ラジオ体操など) 10.7	水泳 24.2	水泳 18.0	水泳 14.4							

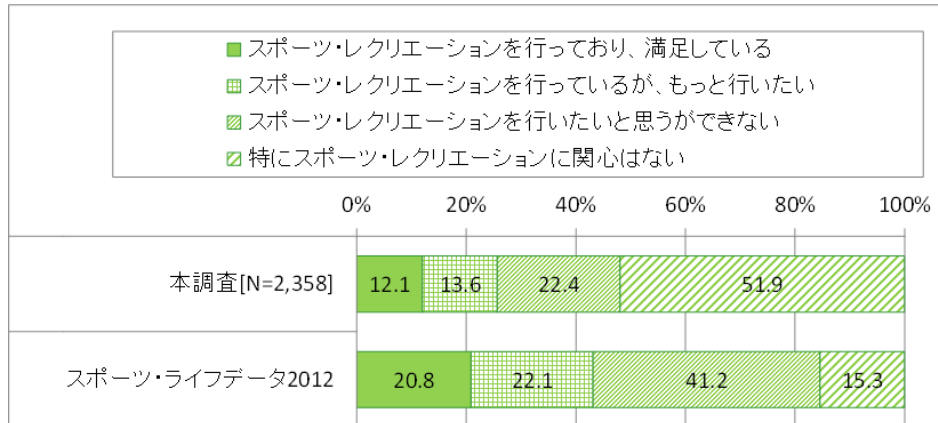
注1)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

②スポーツ・レクリエーションへの取組

スポーツ・レクリエーションへの取組については、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」(51.9%)が最も多く、障害児・者の2人に1人がスポーツ・レクリエーションに無関心であった(図表2)。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012)と比較すると、障害児・者には「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層が多いことがわかった。

障害種別に見ると、「知的障害」「発達障害」では、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」が高かった(図表3)。また、「肢体不自由(車椅子必要)」では、「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が3割と他の障害と比べて高く、障害が重度になると、さらにその割合は増えた。特に肢体不自由者では、スポーツ・レクリエーションへの関心が高く、行いたいと思っているが行えない実態が分かった。

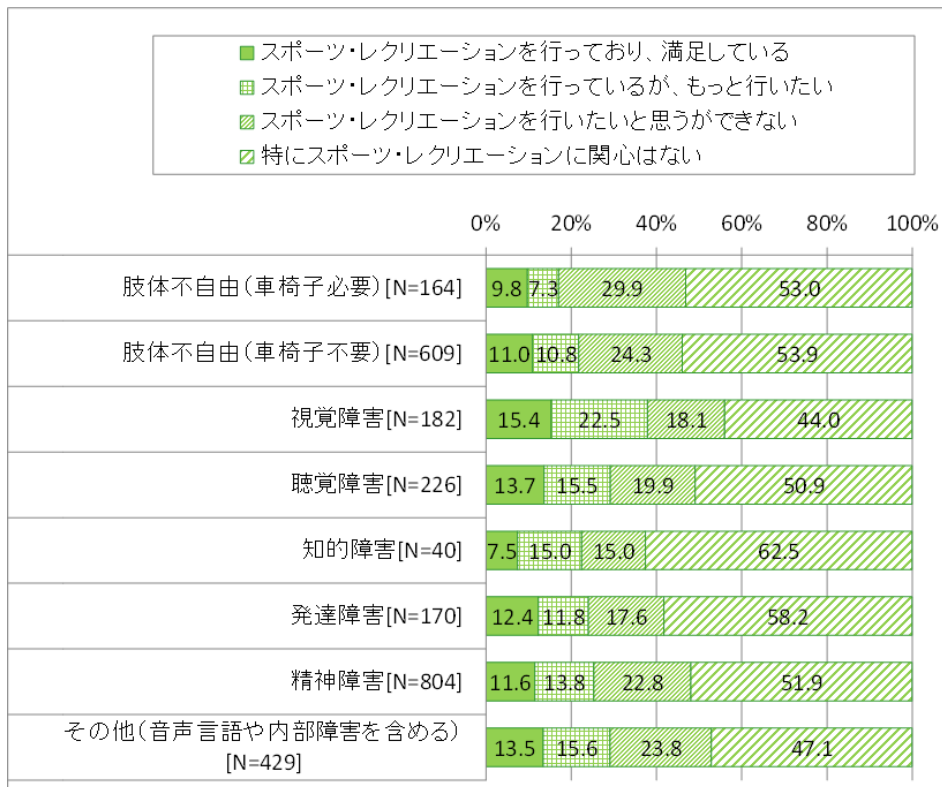
図表 2 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組



注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)：成人を対象とした全国調査。

図表 3 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(障害種別)



注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

■調査名：「障害児・者のスポーツライフに関する調査」

■調査概要：【調査期間】2015年7月

【調査方法】無記名式のインターネット調査

【調査対象】・障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる者
・障害児がいる場合、7歳以上である者

【回収数】回答者4,951人、回答者及び同居家族内障害児・者総数6,449人

【調査内容】スポーツ・レクリエーション実施状況(実施種目、取組み方)等